

国民連帯で
TPPニュース5月号発行
市民も交渉参加阻止に立ち上がった
■1万人キャンドル集会
■国民集会では生・消4000人が集結
ほか
A4判
75-8ページ
お申し込みは
日本農業新聞 広報局 事業開発部
TEL03(5295)7410 FAX03(5295)3370
ご注文は1セット(50部)からお受けします
e農ネット 検索

日本農業新聞

発行所 日本農業新聞
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2番3号
©日本農業新聞2012
2012年(平成24年)
5 4
金曜日



稲SGSを和牛繁殖雌牛に給与する町営の秋山牧場。牛は好んで食べるという(山形県真室川町で)

同JAの稲SGSは、CEの付属施設・もみ穀粉碎機を使い、もみ米に水を加え加熱し膨らませて粉碎、フレコンバッグに入れて乳酸菌を加え2カ月間、発酵させてつく

稲SGS利用進む カントリー施設で加工

山形県のJA真室川町は、カントリーエレベーター(CE)の付属施設・もみ穀粉碎機(プレスパンダー)を使って稲子実発酵飼料(稲ソフトグレインサイレージII SGS)をつくり、輸入の配合飼料より安く畜産農家に

販売している。既存の施設を利用し輸送・保管経費も掛けないことでコストを削減。原料のもみ米が地元産という安心感もあり畜産農家の利用が増え、稲SGSを与える牛の頭数は真室川町内の8割を超える。(玉井理美)

輸入飼料よりお得 安心

が政府から交付されることを前提に設定しているが、農薬の削減や直播(ちやくは)栽培など生産コストの削減にも取り組んでいる。「はえぬき」など主食用品種に加え、「べこごのみ」といった飼料用の多収品種も使う。同町で和牛繁殖雌牛11頭を飼養する高橋直樹さん(40)は母牛に与え

る配合飼料のほぼ全量を入れた。12年産では作付面積が15割増え90割になる見込みだ。原料が地場産で信頼が高いことも畜産農家に好評な理由だ。JA営農指導課の丹康之畜産指導係長は「顔見知りの農家で作った米なので、品質が保証されている。畜産農家が安心して使える」と話す。稲SGSはCEの付属施設を使って製造できるため、山形、宮城、秋田県などのJAでも、JA真室川町をモデルにして取り組みを始めている。

きょうの紙面

12 オンリーワン農業



沖縄県南城市の城間正守さんは、熱帯果実の独自品種を育成・生産する。目標はオンリーワン農業。

5 「米通信」で集荷推進

7 和牛枝肉A3上向く

13 国産ジュース30種超

テレビ6面

日本農業新聞 e農net
<http://www.agrinews.co.jp/>
■読者相談室 03(5295)7403
(10～18時、日祝日除く)

購読のお申し込みは、お近くのJA、または申し込みセンターへ
☎(0120)101630

おはよう 名歌と名句 <1924>

チェルノブイリに抱卵の鵜
(佐藤映二「わが海図・賢治」)
1986年ソ連(現ウクライナ)のキエフ市チェルノブイリで起こった原発事故は放射性物質を欧州上空にまでまき散らした。後々まで放射線障害を続出させた最悪の事故であった。その日が早く来ることを願わずにの地にコウノトリが卵を抱いていない。
(宮坂静生)